

平成 26 年度 標準化会議の事業報告

1. 概要

標準化会議は会員ニーズに基づく積極的な規格原案作成活動を進めた。

国内標準化活動では、JIS 2 規格の新規及び改正原案作成作業を実施した。JSMA 規格は統合化に伴う改正発行及び技術報告書の初めての発行などを行った。

国際標準化活動では、10 月に第 10 回 ISO/TC227 ばね国際会議をパリで開催した。P メンバ 14 か国中、9 か国約 40 名が参加した。日本から提案した「皿ばね第 1 部：計算式」及び「皿ばね第 2 部：技術仕様」の各 CD 案は、何れも CD 投票に入る決議を行った。中国から提案している「重ね板ばね」DIS 案は FDIS 段階をスキップし IS 発行を決議した。

2. 標準化会議の開催

会 議	日時 会場	主な議案
第 1 回会議	平成 26 年 6 月 30 日 機械振興会館	1. 国内各規格開発（JIS、JASO 及び JSMA）活動内容審議 2. ISO/TC227 ばね活動報告及び審議
第 2 回会議	平成 26 年 10 月 7 日 機械振興会館	1. 国内各規格開発（JIS、JASO 及び JSMA）活動内容審議 2. ISO/TC227 ばね活動報告及び審議
第 3 回会議	平成 27 年 2 月 17 日 機械振興会館	1. 国内各規格開発（JIS、JASO 及び JSMA）活動内容審議 2. ISO/TC227 ばね活動報告及び審議 3. 今年度活動の総括と来年度活動計画審議

3. 活動の詳細

3.1 国内規格関係

3.1.1 JIS 規格関係

ISO 規格 16249 Springs-Symbols が平成 25 年春に発行されたことに伴い JIS 公募制度を活用し「ばね記号」の新 JIS 原案作成委員会活動及び B0103「ばね用語」の改正原案作成委員会活動を平成 26 年 4 月から平成 27 年 2 月まで実施した。「ばね記号」は全部で 85 の記号を JIS 化した。なお ISO 規格では τ をせん断未修正応力で規定しており、国内では従来から τ をせん断修正応力で記号化しており、市場の混乱を避けるため以下の様にした。せん断未修正応力は τ_0 、せん断修正応力は τ_k （タウカップ）。「ばね用語」には記号で定義されたばね定数などが規定されているため参考欄に記号欄を設けてその該当記号の R を表示した。また「ばね用語」は全体の見直しも行い、全部で 431 の用語を規格化した。

3.1.2 JASO 規格関係

自動車技術会規格委員会車体・シャシ部会及び要素部会の活動に参加し、小改正作業及び分科会活動等を進めた。JASO C601「自動車部品—重ね板ばね」改正原案作成作業を行い終了した。規格発行は来年度になる。

3.1.3 JSMA 規格関係

SA004「熱間成形角ばね」、SA007「輪ばね」、SB007「冷間成形圧縮長円コイルばね」及び SC005「薄板ばね基本計算方法」を 12 月に改正発行した。ISO 規格 16249 Springs-Symbols が平成 25 年春に発行されたことに伴い、ばね記号の統合化を図った。さらに平成 22 年度

に実施した JSMA 規格総点検で正誤票を発行した規格は、その内容を織り込んだ。また SC005 は旧版の規格名称が「薄板ばね設計マニュアル」となっていたものを SC008「薄板ばねの普通寸法公差」も統合化したことにより、新規格名で改正発行した。

規格と同じ扱いにする技術報告書 (TR) も JSMA 規格と同時期に 3 つ発行した。TRD001「ばね用薄板表面のピッカース硬さ試験方法」、TRD002「ばね用薄板・細線の引張試験方法」及び TRD003「ばね用薄板の疲労試験方法」である。なお技術報告書については紙媒体での配布をとくに行わず、日本ばね工業会のホームページ上から会員限定で閲覧できる方式とした。

3.2 ISO 規格関係

3.2.1 第 10 回パリ国際会議

P メンバ 9 か国が参加し、日本からは相羽国際幹事以下 10 名が出席した。10 月 23 日、24 日の 2 日間開催され、1 日目はワーキンググループ会議、2 日目は本会議が行われた。日本提案の「皿ばね」CD 案は、2 部制とし、第 1 部を計算式、第 2 部を技術仕様にすることが決まり、何れのコンビナーにも野田氏の就任を決議した。会議では CD 案を審議し、CD 投票に入ることを決議した。一方、中国提案の「重ね板ばね」DIS 案は、日本からは JIS 規格に基づく提案を進め、フリースパンの公差、荷重試験の公差などの要求がすべて受け入れられ規定に盛り込まれた。そして会議では IS 発行を決議した。

翌年の第 11 回国際会議はマレーシア（開催都市はクアラルンプール）で実施することを決議した。その他の議題として国際規格の 5 年見直しに伴い、平成 21 年に発行した ISO26909 Springs-vocabulary (ばね用語) は、この会議に同席していた TC2 のワーキンググループからばね座金関連の用語の見直しの提案があり、この活動に参加することを決議した。さらに平成 21 年に発行した ISO26910-1Springs-Shotpeening- Part1 General Procedures は日本から誤記の修正提案を行い追補を発行することを決議した。

この活動には、政府制度の国際標準開発事業、国際幹事国際会議派遣事業のツールを活用し、経済産業省、株式会社三菱総合研究所の支援を頂きながら実施した。